1. 米の流通.
   みかんの流通
2. 生乳の流通.
   生鮮魚類の流通
3. 原油の流通.
   鉄鋼の流通

1. 米の流通

1972年の米の収穫量は、1189万トンで、そのうち政府買入米は541万トン、自主流通米は184万トンである。政府買入米のうち、生産県から消費県に移動する米は332万トンで、そのうち北海道が59万トン、秋田県が43万トン、山形県が26万トン、新潟県が25万トン、青森県が23万トンでこの5道県で全出荷量の52.8%をしめる。また、米の入荷量は東京都55万トン、大阪府45万トン、神奈川県40万トン、兵庫県36万トン、愛知県31万トンで、この5都県で全入荷量の62.7%をしめる。食糧管理法(昭和17年、法律第40号)にもとづく政府買入米は、政府によって生産米の品質が検査され、米の等級と価格が定められる。

〔凡例と作図の要点〕

1972年の都道府県別の米の生産量、消費量を半円記号を組合せて表示した。米の出荷量は、相手県への出荷量が1万トン以上のものについて帯記号で表示した。

〔資料〕

1．農林省，食糧管理統計年報，1972年

1. みかんの流通

1970年の果実の市場入荷量は570万トンで、そのうちみかんが170万トンでもっとも多い。みかんの収穫量と出荷量は主要産地19県で全国のほとんどをしめており、これら19県から9大消費地域に106万トンが出荷された。

〔凡例と作図の要点〕

この図は、1970年7月から1971年6月までの1年間に、9大消費地域に入荷したみかんのうち、主要地域19県からの入荷量を円記号で表示し、さらに円の内部を出荷地方ごとに色わけした。

みかんの出荷量は、1000トン以上を出荷する主要産地19県から、それぞれの消費地域を結ぶ帯記号で、表示した。

なお9大消費地域とは、札幌、仙台、京浜、金沢・富山、中京、京阪神、岡山、広島、北九州の各消費地域で、主要産地19県は神奈川、静岡、愛知、三重、大阪、和歌山、広島、山口、沖縄を除く九州地方と四国地方の各県である。

〔資料〕

1．農林省，生鮮食料品出荷輸送合理化調査，1972

2. 生乳の流通

1972年の生乳の生産量は494万トンで、このうち北海道が134万トン(全国の27%)でもっとも多く、千葉県が24万トン、群馬県が23万トン、兵庫県が19万トンとつづく。生乳の生産県から他の県に移出する量は160万トンである。

生乳の生産量にたいする移出量の割合は、年々増加しつづけ、1965年24.4%、1970年26.8%、1972年32.3%である。移出する生乳はおもに飲用牛乳として消費地で処理され、乳製品用はほとんど生乳を生産する地元で処理される。生乳の移出は従来近県相互におこなわれていたが、最近消費量の増加にともなって、東京都は青森、岩手、宮城、福島、長野の各県から、大阪府は熊本、宮崎の各県からも生乳を移入している。東京都において移出量(6.8万トン)が、生産量(4.7万トン)をうわまわるのは他県から移入した生乳を再び生乳のまま、他の県に移出するためである。

北海道は133万トン(全国の27%)の生乳を処理し、そのうち87%が乳製品用である。これは全国の乳製品用処理の58%にあたる。

〔凡例と作図の要点〕

1972年の生乳の生産量と処理量を半円記号で表示し、生産量のうち、他県へ移出する量の割合と、処理量のうち他県から移入する量の割合を細分した。

出荷量は生乳の生産県から生乳を処理する県に出荷する量が2,500トン以上のものについて帯記号で表示した。

なお、北海道は北見、帯広、札幌、函館の4地域に分けて生乳の生産量、処理量、出荷量などを表示した。

〔資料〕

1．農林省，牛乳・乳製品に関する統計，1972年

2. 生鮮魚類の流通

1972年のわが国漁業の水揚量は715万トンで、そのうち主要64港の水揚量(船上加工物は除く)は458万トンである。さらにそのうち149万トンが出荷されている。出荷先の内訳は、自県内30.0%、6大都市29.6%(東京・横浜14.3%、名古屋4.2%、京都・大阪・神戸11.1%)、その他の地域40.5%で、1968年とくらべて自県内は22.0%から30.0%と増加し、6大都市は34.8%から29.6%と減少している。

〔凡例と作図の要点〕

国内の主要64港から全国を12に区分した消費地域の卸売市場に出荷した生鮮魚類の出荷量を表示した。消費地域の名称の東京・横浜とは東京と横浜の中央卸売市場の入荷量合計である。関東・東山は、長野県、山梨県と関東のうちの東京、横浜以外の中央卸売市場の入荷量の合計である。その他の地域も同様にその地域の中央卸売市場の入荷量合計である。出荷量は各漁港から各地域に出荷する量が1,000トン以上のものを帯記号で表示した。

生鮮魚類は、魚類、その他の水産動物類、くじらをふくみ、貝類と草類はふくまない。

〔資料〕

1．農林省，水産物流通統計，1972年

3. 原油の流通

1972年にわが国に輸入された原油は2億2787万トンで、そのうち輸入した港から他の港に移出した原油は2513万トンである。原油の国内流通量は、1965年に117万トンにすぎなかったが、1970年に354万トン、1972年に2513万トンに達している。

1971年以降に原油の流通量が大幅に増加したのは、鹿児島県喜入に原油貯蔵基地が建設されたことによって、輸入される原油の一部が貯蔵基地を経由して国内の製油所に移出されるようになったためである。1972年の輸入原油のうち直接製油所へ入るものは92.3%、基地(喜入、渥美、昭和)へ入るものは7.7%である。また、基地に入る原油2513万トンのうち喜入から移出されるものは1668万トンで66.4%をしめる。

〔凡例と作図の要点〕

1972年に原油を2万トン以上輸入した港湾について、原油輸入量を円記号で表示した。

流通量は、輸入港から他の港湾に移出される原油のうち2万トン以上のものを帯記号で表示した。ただし、東京、横浜、横須賀、千葉、木更津港は京浜葉とし、名古屋、衣浦、四日市港は名古屋・四日市とし、大阪、堺泉北、尼ヶ崎・西宮・芦屋港は堺・泉北として、それぞれ量を合計して表示した。

〔資料〕

運輸省，昭和47年港湾統計

3. 鉄鋼の流通

鉄鋼需要の増加にともなって鉄鋼の流通量は、年々増加し1965年の1億1077万トンから1972年の2億4310万トンと2.2倍の伸びを示している。

1972年の鉄鋼の流通量を輸送手段別にみると自動車は72.3%、海運は25.4%、鉄道は2.3%となっている。鉄鋼は京浜葉、中京、阪神、北九州、瀬戸内(福山、水島など)、鹿島、釜石、室蘭などの工業地帯の主要製鉄所から出荷される。そのうち遠距離輸送は主として海運で、内陸部の輸送は主として自動車で行っている。

関東地域において陸上の流通量が他の地域にくらべて多いことは、鉄鋼を必要とする自動車工場や機器工作工場が埼玉、群馬、栃木などの内陸各県に立地しているためである。

〔凡例と作図の要点〕

この図は、1972年の鉄鋼業の全国製造品出荷額(6兆7000億円)の1%以上を移出する都道府県(北海道、岩手、茨城、埼玉、千葉、東京、神奈川、新潟、愛知、大阪、兵庫、和歌山、岡山、広島、山口、福岡)について、鉄鋼の流通量を表示した。また出荷量は陸上輸送と海上輸送にわけて表示した。

陸上輸送量は鉄道輸送と自動車輸送を合計し、相手県への移出量が5万トン以上の都道府県について帯記号で表示した。海上輸送量は、同様に5万トン以上の鉄鋼を出荷する港について帯記号で表示した。なお、東京、神奈川、千葉は京浜葉に、大阪、兵庫は阪神に、それぞれまとめて表示した。

〔資料〕

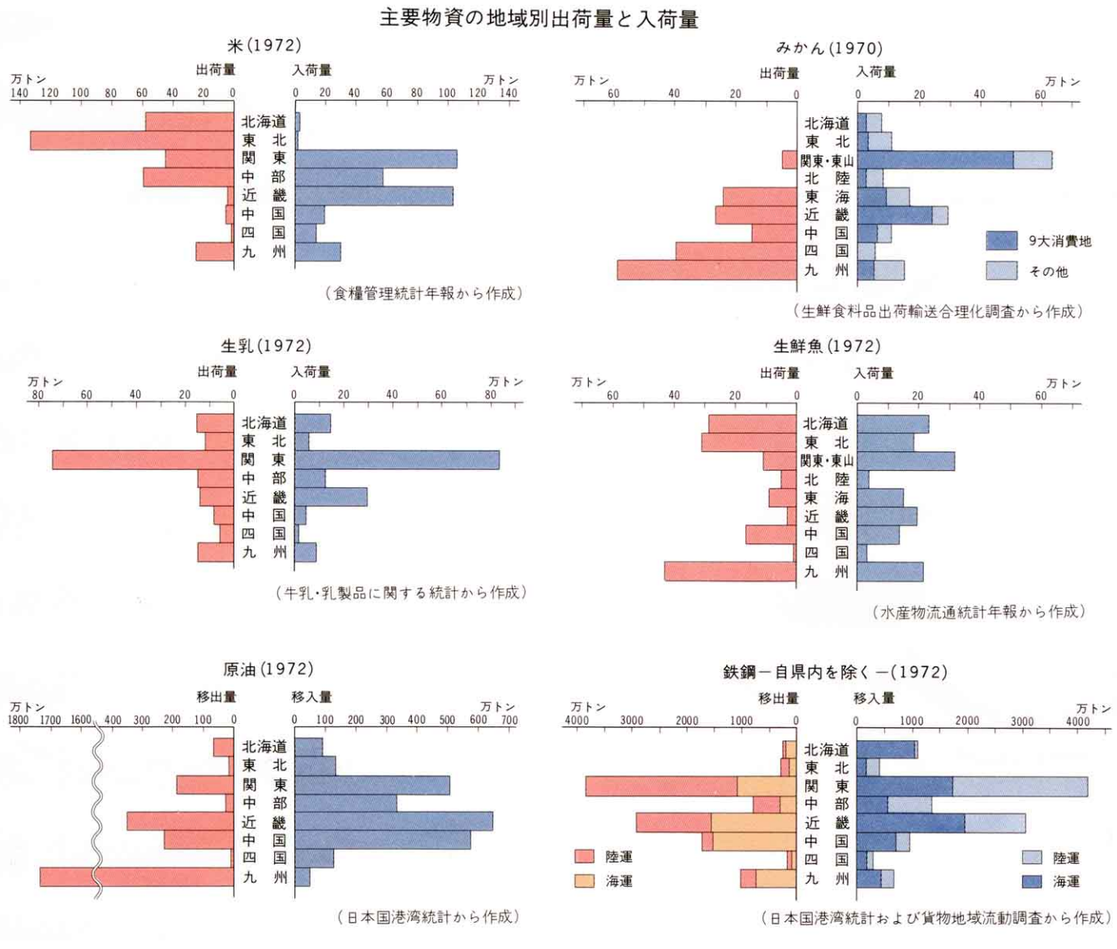
1．運輸省，昭和47年度貨物地域流動調査
2．運輸省，昭和47年港湾統計

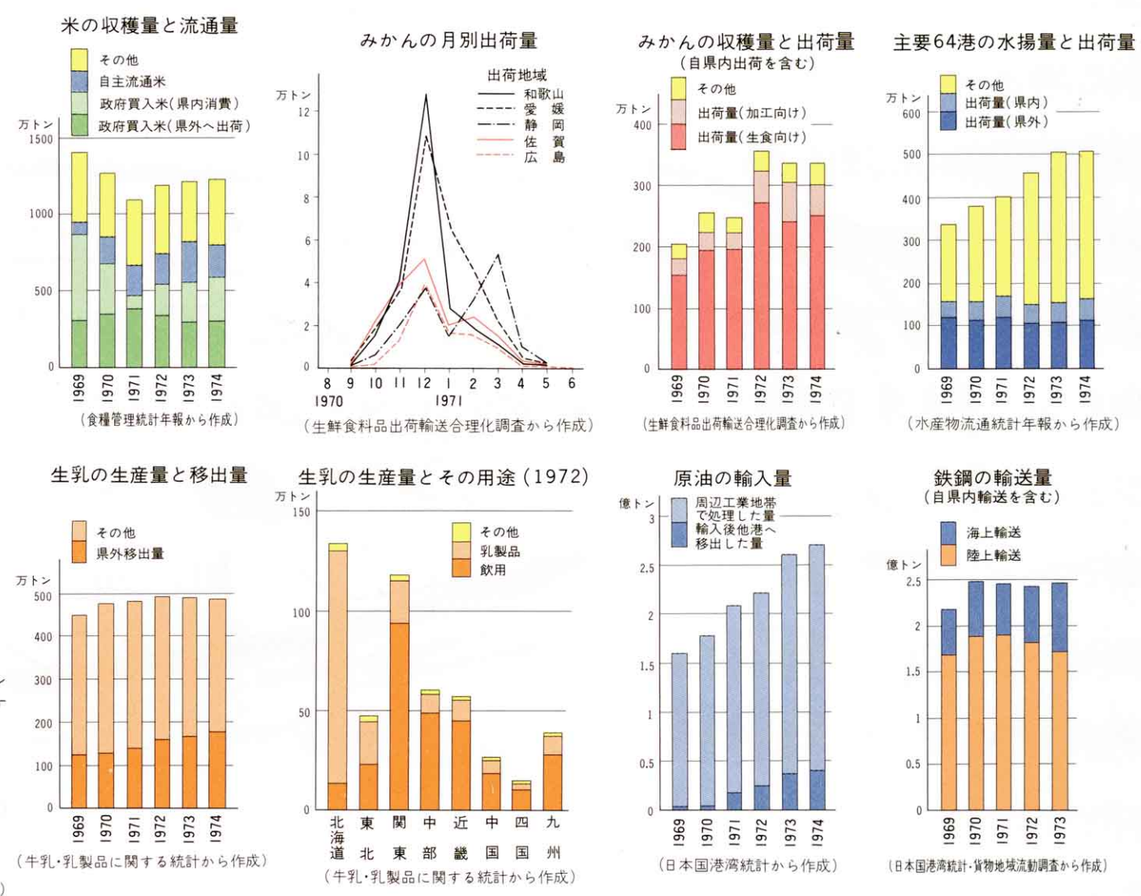
みかんの流通における9大消費地域

地域名	包含される都市
札幌消費地域	札幌市．小樽市
仙台消費地域	仙台市．塩竈市
京浜消費地域	東京都．横浜市．川崎市．横須賀市．藤沢市．大宮市．浦和市．川口市．戸田市．千葉市．市川市．船橋市．松戸市
金沢　富山消費地域	金沢市．富山市．高岡市
中京消費地域	名古屋市．一宮市．岐阜市．四日市市
京阪神消費地域	京都市．大阪府．神戸市．姫路市．尼崎市．西宮市．明石市
岡山消費地域	岡山市．倉敷市
広島消費地域	広島市．呉市
北九州消費地域	福岡市．北九州市．宇部市．下関市

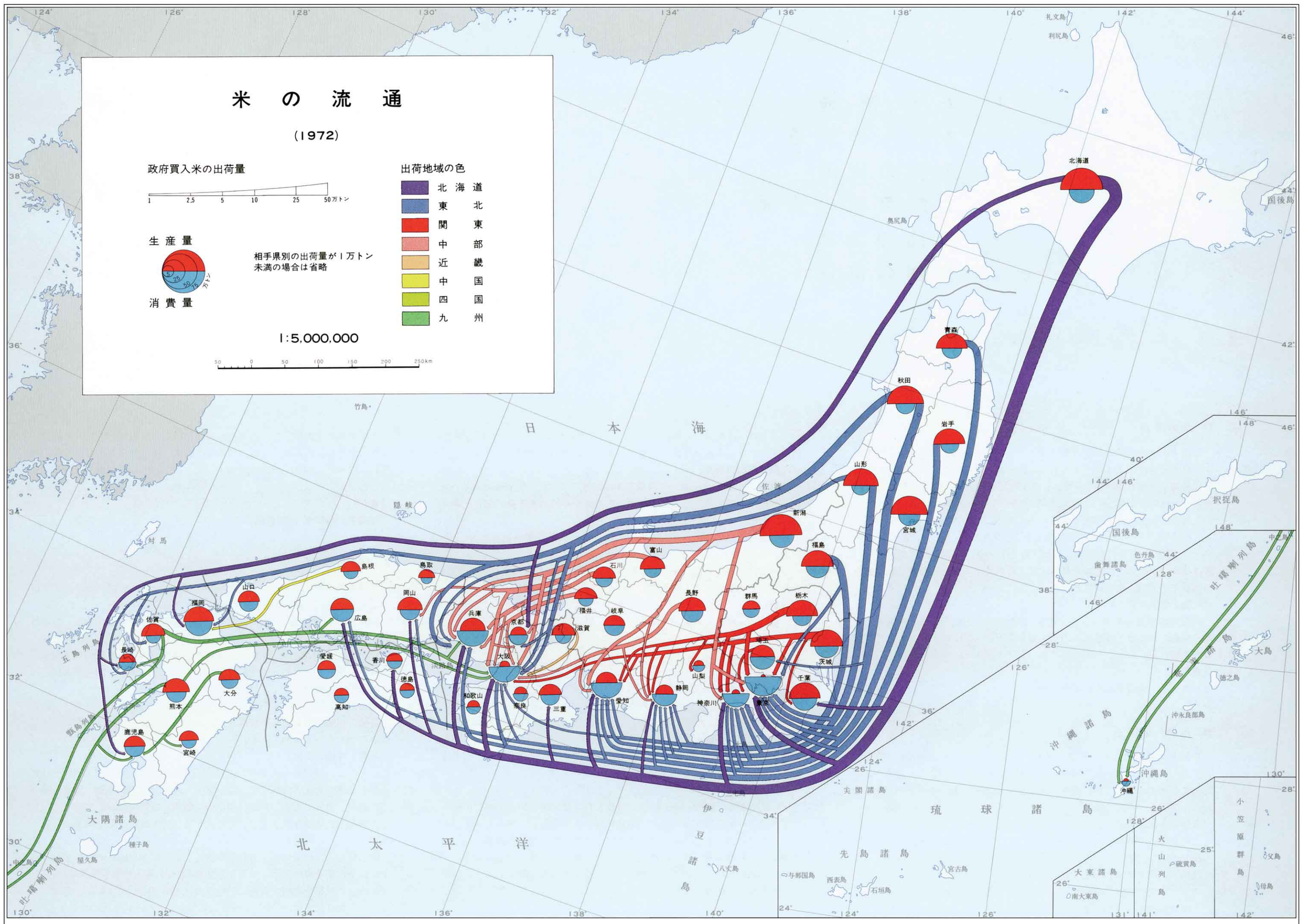
(生鮮食料品出荷輸送合理化調査から作成)

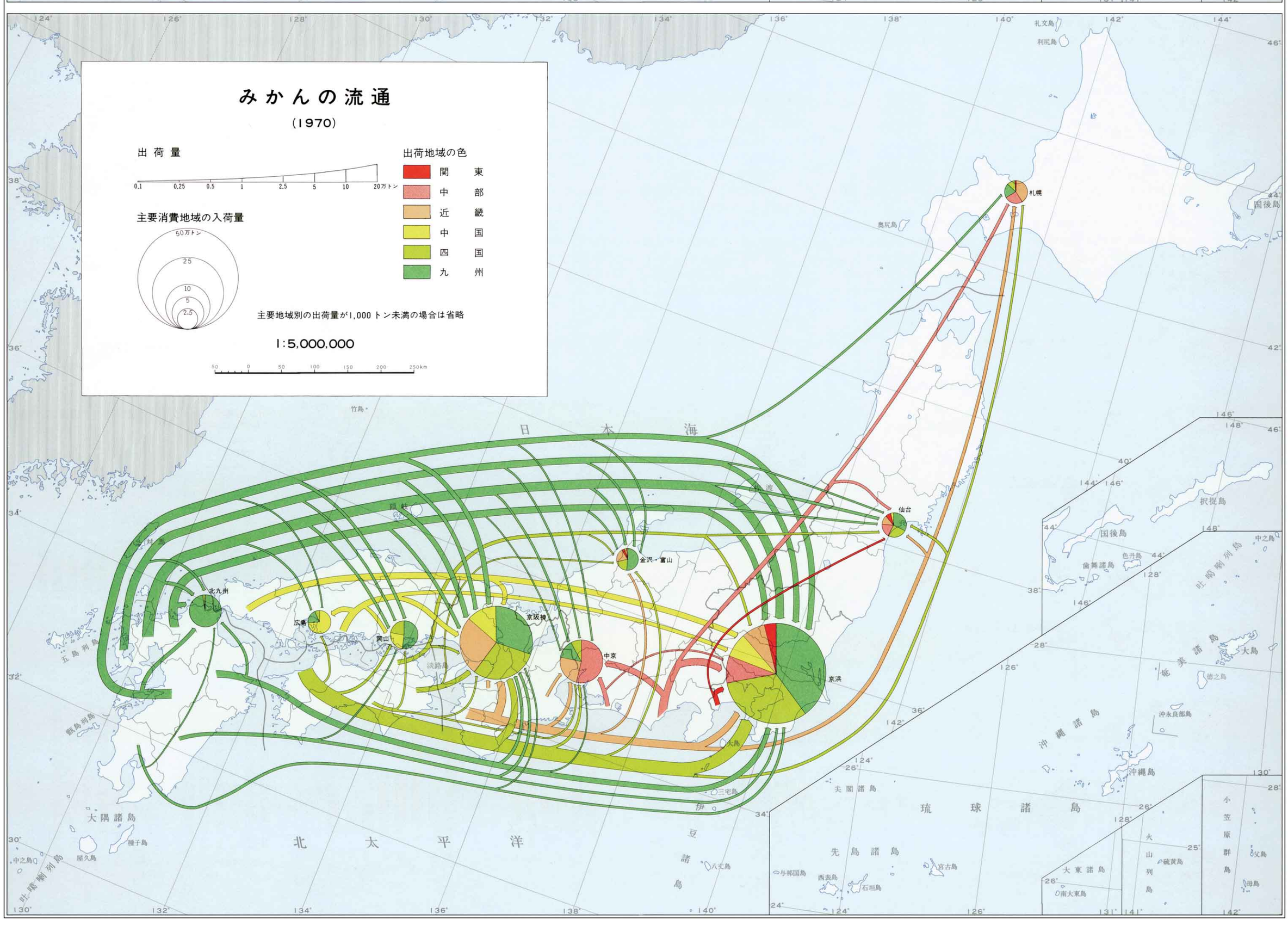
主要物資の地域別出荷量と入荷量



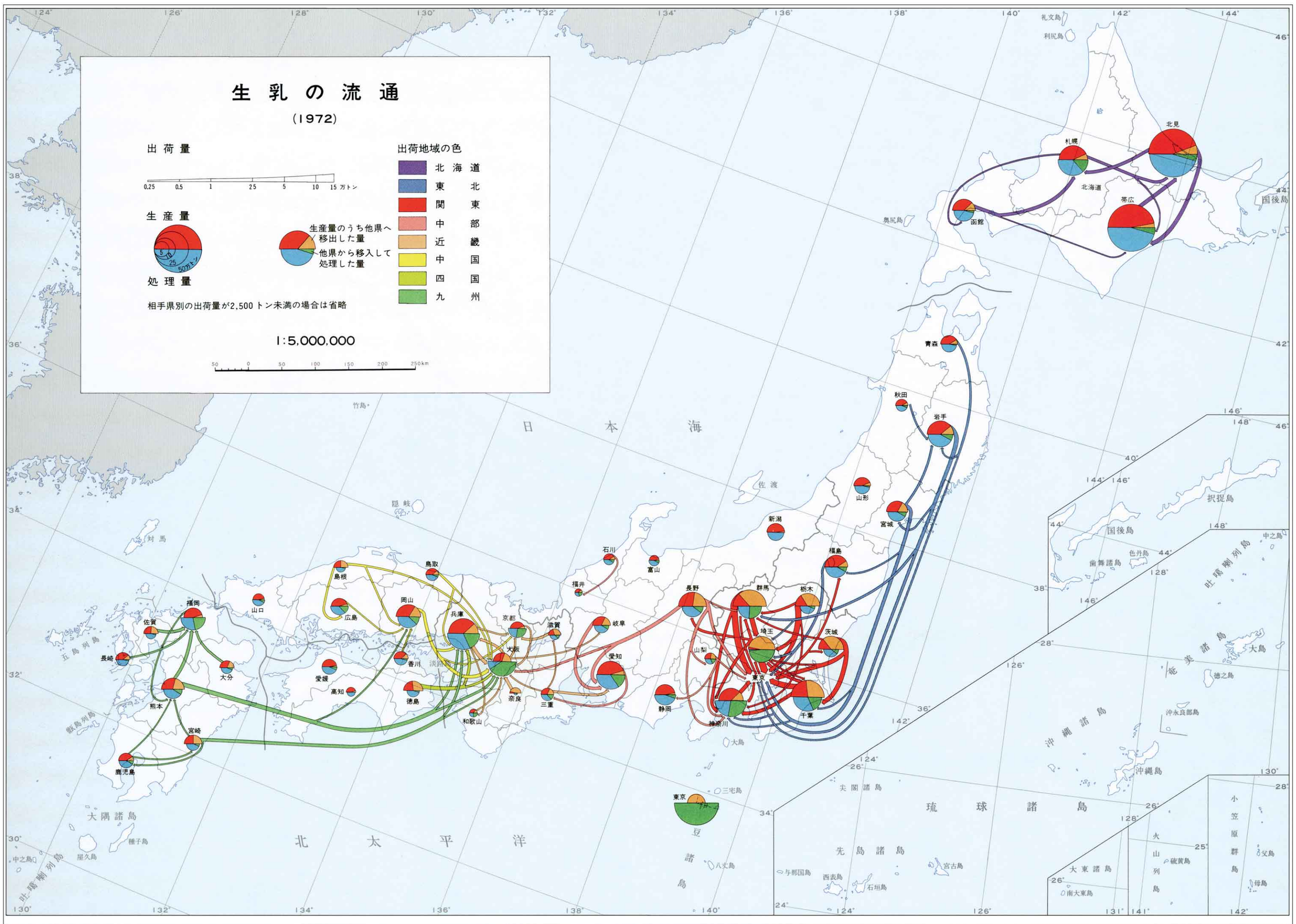


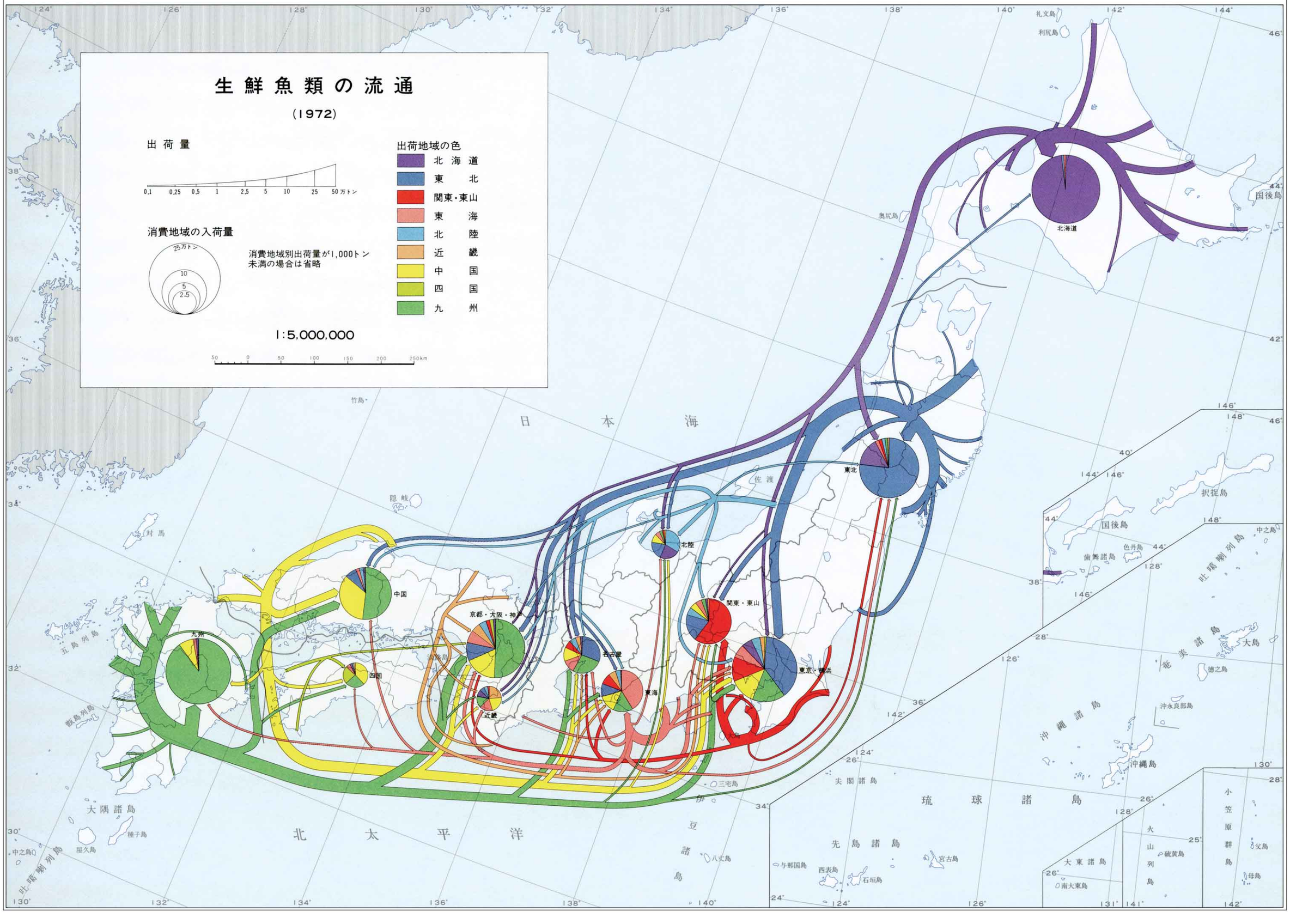
60.1


米の流通
(1972)
政府買入米の出荷量
1 2.5 5 10 25 50万トン
生産量
消費量
相手県別の出荷量が1万トン未満の場合は省略
出荷地域の色
北海道
東北
関東
中部
近畿
中国
四国
九州
1:5,000,000
50 0 50 100 150 200 250km
北海道
青森
秋田
岩手
山形
宮城
新潟
福島
富山
石川
福井
長野
群馬
栃木
茨城
埼玉
千葉
東京
神奈川
静岡
山梨
愛知
岐阜
滋賀
三重
奈良
和歌山
大阪
京都
兵庫
鳥取
岡山
島根
広島
山口
福岡
佐賀
長崎
熊本
大分
宮崎
鹿児島
愛媛
香川
徳島
高知
沖縄
日本海
北太平洋
琉球諸島
沖縄諸島
大隅諸島
先島諸島
大東諸島
火山列島
小笠原群島

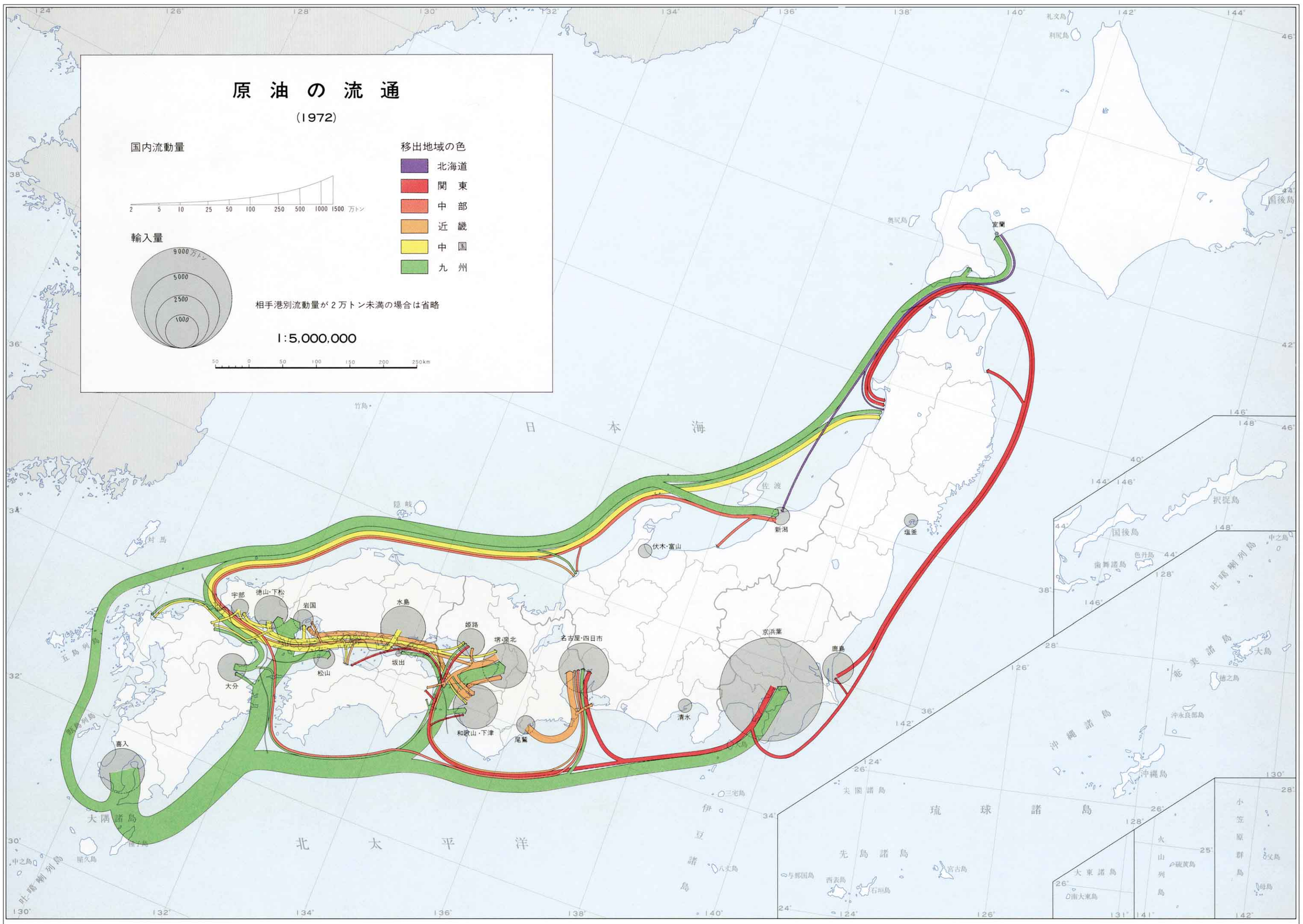

みかんの流通
(1970)
出荷量
0.1 0.25 0.5 1 2.5 5 10 20万トン
主要消費地域の入荷量
50万トン
25
10
5
2.5
出荷地域の色
関東
中部
近畿
中国
四国
九州
主要地域別の出荷量が1,000トン未満の場合は省略
1:5,000,000
50 0 50 100 150 200 250km
札幌
仙台
金沢・富山
京浜
中京
京阪神
岡山
広島
北九州
日本海
北太平洋
琉球諸島
沖縄諸島
大隅諸島
先島諸島
大東諸島
火山列島
小笠原群島

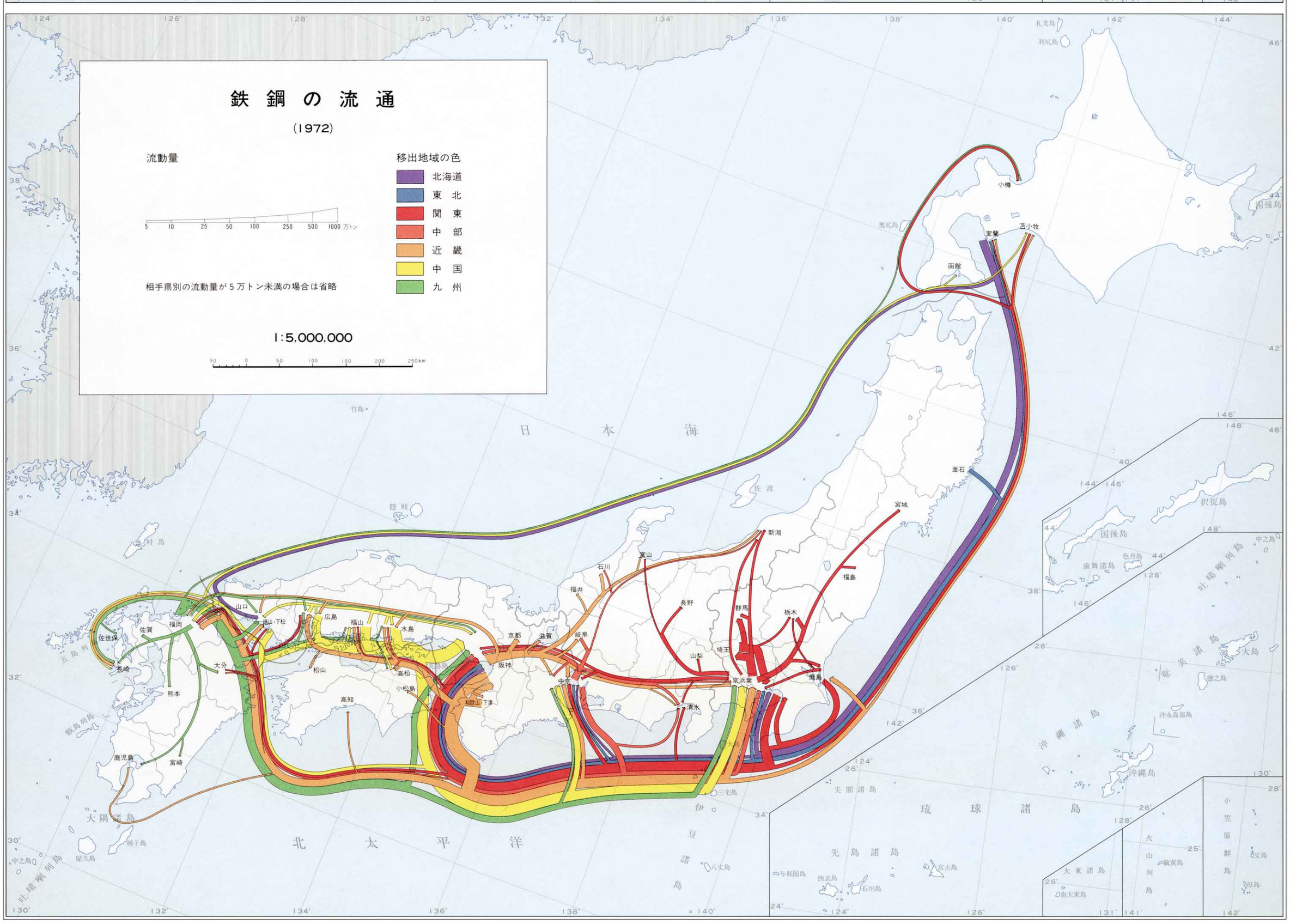
60.2


生 乳 の 流 通
(1972)
出荷量
0.25 0.5 1 2.5 5 10 15 万トン
生産量
5 10 25 50万トン
処理量
生産量のうち他県へ移出した量
他県から移入して処理した量
出荷地域の色
北海道
東北
関東
中部
近畿
中国
四国
九州
相手県別の出荷量が2,500トン未満の場合は省略
1:5,000,000
50 0 50 100 150 200 250km
日本海
北太平洋
琉球諸島
沖縄諸島
奄美諸島
小笠原群島
大東諸島
火山列島
先島諸島
大隅諸島
吐噶喇列島
五島列島
北海道
札幌
北見
帯広
函館
青森
秋田
岩手
山形
宮城
新潟
福島
富山
石川
福井
長野
群馬
栃木
茨城
埼玉
山梨
東京
千葉
神奈川
静岡
愛知
岐阜
滋賀
三重
奈良
和歌山
京都
大阪
兵庫
鳥取
岡山
島根
広島
山口
香川
愛媛
高知
徳島
福岡
佐賀
長崎
大分
熊本
宮崎
鹿児島


生 鮮 魚 類 の 流 通
(1972)
出荷量
0.1 0.25 0.5 1 2.5 5 10 25 50 万トン
消費地域の入荷量
25万トン 10 5 2.5
消費地域別出荷量が1,000トン未満の場合は省略
出荷地域の色
北海道
東北
関東・東山
東海
北陸
近畿
中国
四国
九州
1:5,000,000
50 0 50 100 150 200 250km
日本海
北太平洋
琉球諸島
沖縄諸島
奄美諸島
小笠原群島
大東諸島
火山列島
先島諸島
大隅諸島
吐噶喇列島
五島列島
北海道
東北
関東・東山
東京・横浜
東海
北陸
名古屋
京都・大阪・神戸
近畿
中国
四国
九州

60.3


原油の流通
(1972)
国内流動量
2 5 10 25 50 100 250 500 1000 1500 万トン
移出地域の色
北海道
関東
中部
近畿
中国
九州
輸入量
9000 万トン
5000
2500
1000
相手港別流動量が2万トン未満の場合は省略
1:5,000,000
50 0 50 100 150 200 250km
室蘭
新潟
塩釜
伏木・富山
宇部
徳山・下松
岩国
水島
姫路
堺・泉北
名古屋・四日市
京浜葉
鹿島
大分
松山
坂出
清水
和歌山・下津
尾鷲
喜入
日本海
北太平洋
琉球諸島


鉄鋼の流通
(1972)
流動量
5 10 25 50 100 250 500 1000 万トン
移出地域の色
北海道
東北
関東
中部
近畿
中国
九州
相手県別の流動量が5万トン未満の場合は省略
1:5,000,000
50 0 50 100 150 200 250km
小樽
室蘭
苫小牧
函館
釜石
宮城
新潟
富山
石川
福井
長野
群馬
栃木
福島
山梨
埼玉
京浜葉
鹿島
清水
中京
京都
滋賀
岐阜
阪神
和歌山・下津
高松
小松島
高知
松山
水島
福山
広島
山口
徳山・下松
福岡
佐賀
佐世保
長崎
大分
熊本
鹿児島
宮崎
日本海
北太平洋
琉球諸島